

口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野

1. 教室の歴史

昭和40年4月に歯学部が開設され、同年7月東京医科歯科大学小児歯科学講座より甘利英一先生が赴任された。また、病院が新築移転し、「小児歯科」として診療を開始した。当時は「歯科矯正科」と兼科であったが、昭和44年4月に小児歯科診療室として矯正科から分離独立し、昭和46年7月には小児歯科学教室が独立するに至った。昭和48年3月に甘利英一先生が教授に就任され、同年4月には歯学部の全学科目の講座制移行に伴って、小児歯科学講座が誕生した。昭和49年9月日本小児歯科学会例会を主催した。昭和56年10月に小児歯科診療室がA棟3階からD棟1階に移転、小児歯科医局もA棟5階からC棟1階に移転した。昭和58年10月に第1回の日本小児歯科学会北日本地方会の設立総会並びに学術大会を主催するとともに、甘利英一教授は昭和58年度より昭和60年度まで日本小児歯科学会北日本地方会の初代会長に就任され、その後昭和63年度、平成元年度にも第4代会長として活躍された。昭和61年7月に岩手医科大学小児歯科創立20周年の記念式典が行われた。平成元年10月、中国武漢で開催された第2回牙体牙髓病学会において甘利英一教授と野坂久美子助教授が学術講演を行った。平成2年5月には第28回日本小児歯科学会において甘利英一教授が「小児の口腔軟組織疾患の年齢的な変化」の演題で宿題報告を行った。平成3年4月に眞柳秀昭先生、守口修先生、平成6年4月に佐藤博先生がそれぞれ小児歯科学講座の非常勤講師に就任された。平成10年10月に第16回日本小児歯科学会北日本地方大会および総会を岩手県医師会館で主催した。平成12年3月に甘利英一教授は定年で退職され、同年10月に田中光郎先生が第2代教授として東京医科歯科大学歯学部口腔機能育成学分野（小児歯科）より着任された。平成13年3月に野坂

久美子助教授が定年で退職され、平成14年4月には齋藤亮助教授が講師に昇任した。臨床研修医の教育を診療参加型とするために、また多くの研修医を一元的に教育すること、さらには学部学生の臨床実習にも対応するために、広い診療室を確保する必要があったため、平成15年3月に小児歯科の診療室はA棟1階の旧予診室に移動した。その後、平成26年に現在の名称である小児歯科学・障害者歯科学分野となった。障害者歯科は平成7年に歯学部附属病院内に障害者歯科診療センターとして設立し、平成21年に診療科となった。平成29年3月に田中光郎教授は定年で退職され、同年9月に森川和政が第3代教授として九州歯科大学歯学部口腔機能発達学分野（小児歯科）より赴任した。

歴代教授

甘利 英一（昭和48年3月～平成12年3月）
田中 光郎（平成12年10月～平成29年3月）
森川 和政（平成29年9月～現在）

2. 最近10年間の歩みと現状

（教育）

小児歯科学を通して、小児の健康維持・増進に寄与する事を目的として小児の口腔領域の正常な発育をはかり、健全な発育を障害する異常や口腔疾患の予防と治療の理論と方法を教育・指導している。また、障害者歯科学を通して、各種障害の特長や歯科診療に際しての工夫（全身管理および全身麻酔を含む）を教育・指導している。さらにそれらを通して、患者（児）の歯科治療方法を自分で工夫できる歯科医師を育て、治療に役立つ技術の研鑽を行っている。

講義・実習に関しては、画像や動画を多く用い視覚的に学生に訴えかけ記憶に残る講義・実習を行うように心がけている。講義資料は学生アンケート等を活用し毎年、再構成・再作成をしている。また現在、歯学部で進められている

改革プロジェクトはCBT等で徐々に成果が現れてきており、引き続き本プロジェクトに基づき教育を遂行することで歯科医師国家試験合格率向上に繋がるものと考えている。教育ワークショップにも積極的に出席し、近年は主に岐阜大学医学部で開催している「医学教育セミナーとワークショップ」に参加し、MEDCアソシエイトの認定を受けている。

(臨床)

歯科治療が苦手な子どもたち（歯科治療不協力児、障害児）への歯科治療に最も力を入れている。日常臨床において歯科医院への来院や受診を嫌がる子どもたちをよく見かけつが、その原因として患児が低年齢であること、過去の歯科治療で恐怖経験があること、からだや心の発達の遅れがあることなどが考えられる。そのような歯科治療が苦手な子どもたちに対して、その患児の歯科治療に対する受け入れ状態から、治療方法を行動療法的アプローチと薬理学的アプローチに分類している。行動療法的アプローチでは行動変容法や構造化プログラムを応用し、薬理学的アプローチでは歯科麻酔科と連携し受容が可能であるならば笑気吸入鎮静法で、受容が困難で治療時間が短い場合は静脈内鎮静法で、治療時間が長い場合には全身麻酔法で、また選択した方法でうまくいかない場合には上位のアプローチへ変更するように、初診時において保護者・患児に情報を提供している。特に障害者（児）の歯科治療に関しては、患児の障害の特徴を理解した上で安全かつ、その患児に最も適した対応法の選択をしている。そのため外来診療だけでなく、入院下での全身麻酔診療もこれまでに多数症例行っている。

小児科との連携

小児科より入院患者に対する紹介を受け、以下の対応を行っている。

- ・入院時のスクリーニング 小児科病棟への入院時に初診として小児歯科にて口腔内のスクリーニングを行う。原疾患により対応は変わるが、入院中のスケジュールと合わせた治療・口腔ケアを行う。特に、原疾患により化学療法・

放射線療法・移植が予定されている場合は齶蝕を可及的に治療し、感染源の除去を行ったうえで原疾患の治療に臨めるようにする。また、原疾患の治療により、抵抗性の減少や移植片対宿主病（GVHD）などにより、口腔内に口内炎や潰瘍を生じ、原疾患に加え症状を呈する場合、症状緩和を目指し歯科の対応を行う。また、以下に記す病棟回診にて患児たちの口腔内症状を把握し、歯科の対応へ応用する。

- ・病棟回診 入院時スクリーニングより得られた口腔内情報に対し、患児に対する歯科の対応を行う。また、保護者・看護師を交えた口腔診査・口腔ケアを行っていく。また、小児科より口腔内状況の変化について報告があった場合は可能な限り病棟にて口腔診査を行い、対応を検討・実施していく。
- ・カンサーボードミーティング 月に1度程度周術期患児に対するミーティングを行う。このカンサーボードミーティングでは医師・歯科医師・歯科衛生士・看護師・作業療法士・栄養士・保育士など病棟でのスタッフが多職種に参加する。その中で、治療の流れから患児や家族のパーソナリティまで幅広い情報を共有することを目的としミーティングを行う。特に、日常の患児自身および家族による口腔ケアは、看護師が確認していることも多く、病棟回診時の状態と合わせ、口腔ケアの状況を把握することができる。

(研究)

「口腔機能・形態の発育を担う顎顔面骨格筋局所に発現するアミノ酸センサーの役割」

近年、小児の健やかな成長のために嘔む・飲みこむ・話すなどの口腔機能の重要性が認識され関心が高まっている。また適切な口腔機能を営むためには機能的形態を獲得する必要があるが、頭蓋・顎顔面の形態の特徴は遺伝的要因だけでなく、構成する骨の成長や骨同士の相互作用、さらには骨に付着する骨格筋などの影響を強く受ける。特に歯列形態においては、外側か

ら頬筋や口輪筋など口腔周囲筋からバクシネーターメカニズム（頬筋機能機構）といわれる外圧が加わり、内側から舌筋による内圧が加わり、上下的に咬合力が加わっていることにより、歯列弓はそのバランスの取れたところに位置していると考えられている。しかしながら口腔の機能や形態に与える顎・顔面骨格筋の役割には依然として不明なことが多い。うま味受容体 Tas1r1/Tas1r3 は味蕾に発現しアミノ酸を認識するだけでなく、小腸粘膜上皮細胞や骨格筋に発現しアミノ酸代謝に関与すると言われているがその役割には不明な点が多い。まず Tas1r1 と Tas1r3 の両方とも骨格筋に発現することを確認した。また Tas1r1 と Tas1r3 は骨格筋幹細胞のサテライト細胞、筋芽細胞株 C2C12 細胞にも発現し、分化とともにその発現が上昇した。オートファジーは飢餓状態を生き抜くために自己消化することで栄養源を確保していると一般には理解されているが、飢餓状態にした骨格筋線維ではオートファジー関連遺伝子の発現が上昇するとともに Tas1r1 と Tas1r3 の発現が低下した。Tas1r1/Tas1r3 は mTOR1 を活性化して Autophagy を抑制することが知られているため、飢餓を認知した Tas1r1/Tas1r3 は自身の発現を減少させることで Autophagy を活性化し骨格筋タンパク質を分解することで血中にアミノ酸を供給している可能性がある。「還流型歯面処理システムによる再石灰化療法の研究」

小児に齲蝕の痛みや治療の苦痛の体験をさせないようにするには、未然に防ぐことが肝要であり、小児歯科臨床ではフッ化物の塗布による予防が広く行われている。その効率化、確実化を図るために当教室では還流型のフッ化物塗布装置を開発中である。この装置を用いれば唾液による希釈の影響なく、確実にそして効率的にフッ化物塗布が可能となり、さらに温度を上げることでさらなる効率化が期待できる。現在フッ化物溶液の温度を上げることによる歯質表面におけるフッ化物生成状態など、より効果的な齲蝕予防法について検討を進めている。

「齲蝕病原性細菌、歯周病原性細菌の小児期における特徴と母子伝播」

これまで小児プラークのミュータンス連鎖球菌、歯周病原性細菌の小児期における感染状況を把握し、母子間の垂直感染状況の差異を研究してきている。現在は、ヒト口腔内プラーク中の細菌叢について解析し、ミュータンスレンサ球菌以外の齲蝕関連性のある細菌について検討を行っている。

「特別支援学校教員に対する給食指導と実態調査」

岩手県の特別支援学校の教員を対象とした摂食嚥下研修会を開催している。新任教員に対する基礎編とすべての教員を対象としたアドバンスコースを子ども達の給食がはじまる前に行っている。研修会後に行っているアンケート結果より、教職員の給食指導の意欲が高まっていることが示唆される。現在は1校だけの介入である。今後は県内全域にわたる実態調査と介入を行いたいと考えている。

「iPS細胞由来神経堤細胞を用いた頭蓋顔面骨再生の研究」

マウス iPS 細胞から効率的な神経堤細胞 (iPS-NCLC) から分化させた間葉系幹細胞 (iPS-MSC) が顎骨再生における有用な細胞ソースになるのではないかと考え検証を行った。結果として血清含有培地で培養した iPS-NCLC は MSC マーカーを発現する細胞へと分化した。iPS-MSC は、骨芽細胞、脂肪細胞、軟骨芽細胞への分化誘導培地で培養することで、それぞれの細胞へと分化した。マウス頭蓋骨欠損部において、iPS-MSC を移植した群は非細胞移植群と比較してより多くの新生骨の形成を認めた。また、新生骨組織周囲の iPS-MSC は骨芽細胞マーカーを発現していた。

「小児期侵襲性歯周炎治療のための新規治療法開発戦略」

小児における侵襲性歯周炎、いわゆる若年性歯周炎は比較的稀な疾患であり、その発症率はアジア系人種においては、0.1-0.2% 程度と報告されている(小児歯科学雑誌, 48: 20-28, 2010)。しかし、本疾病が発症すれば、小児期での多数の永久歯

喪失に伴う顎骨発育障害や糖尿病などの成人病の発症リスクが高まるなどの局所的ならびに全身的な病態を呈するに至る。また、本疾患の発症には、*Aggregatibacter actinomycetemcomitance* (*A.a*) の関与が知られており、とくに *A.a* の lipopolysaccharide (LPS) は、単球/マクロファージに作用してこれを炎症性マクロファージ (M1-M Φ) に分極させて炎症性サイトカインの分泌を促すことにより、破骨細胞への分化・活性化を誘導することなどが知られている。また、この LPS が骨芽細胞に作用して破骨細胞分化促進因子 (RANKL) の発現を誘導し、破骨細胞への分化・活性化を促進することも知られているが、本疾患が発症する分子メカニズムの全容は明らかとされていない。当科では、歯根膜由来間葉系幹細胞が *A.a* 由来 LPS により炎症性に活性化された M1-M Φ を M2-M Φ に分極化するメカニズムを解明し、新たな小児期の侵襲性歯周炎治療法樹立のための分子基盤を確立するために研究を進めている。

「エナメル芽細胞における LPA シグナルの機能的役割」

エナメル質形成不全症 Amelogenesis Imperfecta (AI) は、エナメル質の厚さや石灰化度の低下などの症状を呈する遺伝性疾患である。これまでの研究から、いくつかの原因遺伝子が特定されてきたが、それら遺伝子の機能や制御メカニズムにはいまだ不明な点が多い。また、エナメル芽細胞分化をはじめとするエナメル質形成のメカニズムに関しても、未だ解明されていない点が多い。これまで、当大学解剖学講座発生生物・再生医学分野は、細胞骨格制御に関する small G protein の 1 つである RhoA が細胞極性の形成を介してエナメル芽細胞の成長・分化をコントロールすることを発見した。現在、この RhoA の上流因子を探索しており、候補としてリゾホスファチジン酸 Lysophosphatidic acid (LPA) に着目している。LPA は、リン脂質から合成させる生理活性リゾリン脂質メディエーターの 1 つであり、細胞増殖、血小板凝固作用、平滑筋収縮効果、がんの

浸潤促進効果など多岐にわたる薬理作用を持つ。また、LPA は PA-PLA1 α やオートタキシンなどの合成酵素により産生されて血清中に存在し、細胞膜上の LPA 受容体 (LPA1~6) から RhoA シグナルなどいくつかの経路を介して細胞内シグナル伝達が行われる。しかし、歯の発生、特にエナメル質形成において LPA がどのような役割を担っているのかは明らかになっていない。解剖学講座発生生物・再生医学分野との共同研究として、エナメル芽細胞分化やエナメル質石灰化の制御における LPA の役割を、分子メカニズムの・免疫組織学的手法を用いて解析を行う。本研究から得られる結果は、エナメル質形成メカニズムの解明、ひいてはエナメル質形成不全症の発症機序解明の足掛かりになると期待できる。

3. 人事 (令和元年5月1日現在の教職員)

(教授) 森川 和政
 (准教授) 久慈 昭慶, 熊谷 美保
 (講師) 菊池 和子
 (助教) 橋口 大輔, 齊藤 桂子, 氏家 隼人
 (常任研究員) 蒔苗 剛, 磯部 可奈子, 氏家 香
 (大学院生) 稲葉 陽, 荒井 春乃
 (研究補手) 田中 香緒里
 (非常勤講師) 山崎 要一, 田中 英一, 武田 康男

4. 最近 10 年間の業績

(科学研究費)

- ・森川 和政, 牧 憲司
 基盤研究 (C) 2013 年度 - 2017 年度
 歯の萌出経路形成における歯槽骨骨吸収メカニズムの解明
- ・森川 和政, 古株 彰一郎, 佐藤 毅, 人見 涼露
 基盤研究 (C) 2018 年度 - 2020 年度
 口腔機能・形態の発育を担う顎顔面骨格筋局所に発現するアミノ酸センサーの役割
- ・菊池 和子, 久慈 昭慶, 城 茂治
 基盤研究 (C) 2004 年度 - 2006 年度
 心電図 R R 間隔変動の解析における歯科治療



時の自律神経活動の研究

- ・菊池 和子, 藤原 尚樹, 大津 圭史
挑戦的萌芽研究 2012年度 - 2013年度
IPS細胞由来奇形腫による歯胚発生のマ
スターキー遺伝子探索と器官再生への展開
- ・菊池 和子, 藤原 尚樹, 大津 圭史
挑戦的萌芽研究 2014年度 - 2015年度
昆虫の休眠ホルモンを用いた組織保存液の開発
- ・菊池 和子, 原田 英光
基盤研究 (C) 2018年度 - 2020年度
ウスタビガ繭シルクプロテインとiPS細胞に
よる歯槽骨再生技術の開発

(論文・著書等)

小児歯科

- ・品川光春, 田中光郎, 犬塚勝昭, 大原裕, 國
本洋志, 鈴木広幸, 福本敏, 藤居弘通: 小児
歯科医療の現状と問題点について—小児歯科
専門医へのアンケート調査から—, 小児歯誌,
47 (1) : 51-58, 2009
- ・荒井千鶴, 巻口あゆみ, 田中光郎: 乳歯列小
児における齲蝕関連要因間の相関性, 小児歯
誌, 47 (4) : 594-599, 2009
- ・Makoto Saito, Akiko Ryokawa, Mitsuro Tanaka :
An intruded immature permanent incisor splinted
with a mouthguard: A case report *Pediatric Dental
Journal* , 19 (2) : 252-255, 2009
- ・Mitsuro Tanaka, Tadafumi Kawamoto and Hiroki
Matsumoto : Distribution of 14C-bisphenol A in
pregnant and newborn mice , *Dental Materials*
Volume 26, Issue 6, Pages e181-e187, June 2010
- ・Kakuta H, Sone S, Matsumoto H, Tanaka M, :
Severe root resorption associated with ectopically
erupting teeth: A case report, *Journal of Dentistry
for Children*, 77 (2) : 118-122, 2010.
- ・Tomokazu Hasegawa, Naoyuki Chosa, Takeyoshi
Asakawa, Yoshitaka Yoshimura, Asami Asakawa,
Akira Ishisaki, Mitsuro Tanaka.: Effect of
fibroblast growth factor-2 on periodontal ligament
cells derived from human deciduous teeth in vitro.
Experimental and Therapeutic Medicine. 1 (2) :
337-341, 2010
- ・齋藤亮, 田中光郎: 咬合誘導の基本, 日常臨床
で取り組む小児歯科診療の実際⑥, *Dental
Diamond*, デンタルダイヤモンド社, 68-72, 2010
- ・田中光郎: 小児齲蝕の現状, *小児科臨床*, 63
(11) : 2263 ~ 2268, 2010
- ・荒井千鶴, 巻口あゆみ, 高橋雅, 齋藤亮, 田中
光郎: 混合歯列期小児における齲蝕関連要因
間の相関性, *小児歯誌*, 48 (6) : 667-672, 2010
- ・田中光郎: 小児期のむし歯の特徴, *小児内科*,
43 (8) : 1309-1313, 2011
- ・Takeyoshi Asakawa, Naoyuki Chosa, Yoshitaka
Yoshimura, Asami Asakawa, Mitsuro Tanaka,
Akira ishisaki, Masato Mitome, Tomokazu
Hasegawa. Fibroblast growth factor 2 inhibits the
expression of stromal cell-derived factor 1 α in

- periodontal ligament cells derived from human permanent teeth in vitro.
International journal of Molecular medicine , 29 : 569-573, 2012
- ・田中光郎：厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「課題名：健康長寿につながる小児期からの定期的歯科チェックアップシステムの構築」2010, 2011 年度総合研究報告書 2012年5月
 - ・荒井千鶴, 巻口あゆみ, 高橋雅, 齋藤亮, 田中光郎：当院に通院中の小児患者における下顎小白歯歯胚石灰化の遅れに関する調査, 小児歯誌, 50 (3) : 188-192, 2012
 - ・Takeyoshi Asakawa, Naoyuki Chosa, Tomokazu Hasegawam, Asami Asakawa, Akira Isizaki, Mitsuro Tanaka : SDF-1 regulation of expression on periodontal ligament cells derived from human permanent teeth Interface , Oral Health Science 2011, P107-109 K.Sasaki et al. (eds.) Springer 2012
 - ・Asami Otake-Asakawa, Rikako Harada-Oikawa, Yuko Ohara-Nemoto, Mitsuro Tanaka, Shigenobu Kimura : Maternal transmission of mutans and other oral streptococcal species. Interface Oral Health Science 2011, P198-200 K.Sasaki et al. (eds.) Springer 2012
 - ・Akira Okuno, Takashi Nezu, Mitsuro Tanaka : A warmed topical fluoride dolution enhances KOH-soluble and -insoluble fluoride formation on tooth surfaces in vitro. Pediatric Dental Journal , 24 (1) : 22-26, April2014
 - ・木村美澄：小児プラークへの歯周病原性細菌の定着, 岩手医科大学歯学雑誌, 38 (3) 107-116, 2014
 - ・奥野 瑛, 三上 俊成, 武田 泰典, 田中 光郎：歯根の骨置換性吸収により歯の移動が困難であった1例, 岩手医科大学歯学雑誌, 38 (3) 117-123, 2014
 - ・丸谷由里子：歯と口腔の発育, 特集：知っておきたい小児歯科 UP DATE, 小児科, 56 (2) : 105-113, 2015
 - ・田中光郎：小児期における咬合の発達と異常, 小児保健研究, 74 (1) : 97-100, 2015
 - ・田中光郎, 石塚治, 荻田修二, 木本茂成, 高野博子, 橋本敏昭, 藤原卓, 山崎要一：(2012-2013 年度小児歯科学会将来計画検討委員会) 小児歯科専門医に通院している患者保護者の小児歯科専門医に対する意識調査, 小児歯誌, 53 (4) : 455-461, 2015
 - ・奥野瑛, 田中光郎：後継永久歯の萌出障害を生じた上顎乳中切歯水平埋伏の1例, 小児歯誌, 53 (4) : 512-517, 2015
 - ・田中光郎：小児の定期的歯科チェックアップの国際比較, 小児歯誌, 54 (1) : 16-21, 2016
 - ・齊藤桂子, 氏家隼人, 蒔苗剛, 櫻井真梨子, 松本弘紀, 青木健史, 宮田泰子, 三笠佑介, 藤井雅, 丸谷由里子, 田中光郎：本学小児歯科における全身麻酔下での歯科治療の実態, 小児歯誌, 54 (4) : 482-487, 2016
 - ・齊藤桂子, 田中光郎：上顎小白歯部に両側に過剰歯を認めた1例, 小児歯誌, 54 (4) : 488-493, 2016
 - ・Hayato Ujiie, Syozo Nakashima, Mitsuro Tanaka : Warmed acidulated phosphate fluoride enhances release of fluoride from human enamel surfaces, promoting lesion remineralization in vitro and in situ, Pediatric Dental Journal
 - ・蒔苗剛, 下山佑, 松本弘紀, 木村重信, 田中光郎：小児プラークにおけるミュータンスレンサ球菌定着量と齲蝕罹患率の関連, 小児歯誌, 55 (1) : 51-60, 2017
 - ・Akira Okuno, Mitsuro Tanaka : Isolated bilateral macrodontia of the mandibular second premolars with familial multiple supernumerary teeth : A case report Pediatric Dental journal 1-4, 2017
 - ・丸谷由里子, 及川利佳子, 齊藤桂子, 田中光郎：本学小児歯科外来における初診患者の実態調査, 小児歯科学雑誌 55 (1) : 37-43, 2017
- 障害者歯科
- ・久慈昭慶, 市川真弓, 菊池和子, 熊谷美保, 佐藤健一, 城 茂治：プロポフォール麻酔を用い

- た先天性筋緊張性ジストロフィー患者の抜歯経験, 臨床麻酔, Vol.32 No.1 41-44, 2008
- ・菊池 和子, 熊谷 美保, 小坂橋 航, 市川真弓, 榊田 明子, 杉浦 剛, 鈴木 史人, 佐藤 健一, 久慈 昭慶: 日帰り全身麻酔を行っている歯学部附属病院障害者歯科の診療実態, 障害者歯科学会雑誌 第32巻 第1号 65 - 72, 2011
 - ・久慈 昭慶, 菊池 和子, 熊谷 美保, 小坂橋 航, 守口 霞, 佐賀 明子, 磯部可奈子, 大谷亜紀子, 佐藤 健一, 四戸 豊: 簡易呼吸陽圧発生装置が自発呼吸に及ぼす影響 - 呼吸力学パラメータによる分析 - 岩手医科大学歯学雑誌 第39巻 第3号 98-105
 - ・Kanako ISOBE, Takuya YOKOYAMA, Kasumi MORIGUCHI-MORI, Miho KUMAGAI, Yoh-ichi SATOH, Akiyoshi KUJI, Tomoyuki SAINO : Role of pituitary adenylyl cyclase-activating polypeptide in intracellular calcium dynamics of neurons and satellite cells in rat superior cervical ganglia, Biomedical Research 第38巻 第2号 2017
 - ・Kazuko Kikuchi, Tomoyuki Masuda, Naoki Fujiwara, Akiyoshi Kuji, Hiroyuki Miura, Han-Sung Jung, Hidemitsu Harada, Keishi Otsu : Craniofacial Bone Regeneration using iPS Cell-Derived Neural Crest Like Cells, Journal of Hard Tissue Biology 27 (1) 1-10 2018
- 小児歯科・障害者歯科
- ・Takuma Matsubara, Mariko Urata, Tsuyoshi Nakajima, Mari Fukushaki, Ryo Masuda, Yoshiyuki Yoshimoto, William N. Addison, Chihiro Nakatomi, Kazumasa Morikawa, Min Zhang, Katsura Saeki, Yukiko Takahashi, Atsuko Nakamichi, Shoichiro Kokabu : Geranylgeraniol-induced Myogenic Differentiation of C2C12 Cells. In Vivo. 32 (6) : 1427-1431, 2018
 - ・久慈昭慶, 菊池和子, 熊谷美保, 守口 霞, 磯部可奈子, 大谷亜紀子, 大久保明, 柄内貴子, 森川和政: ガーゼと止血鉗子を用いた隔壁による口腔内異物落下防止策, 障歯誌 39 (4) 445-447 2018
 - ・磯部可奈子, 菊池和子, 熊谷美保, 久慈昭慶, 森川和政: 多量の胃内容物残留のため日帰り全身麻酔が中止となった自閉スペクトラム症の1症例, 岩手医科大学歯学雑誌 4 (3) 号掲載 153-159, 2019
 - ・森川和政 (分担) 小児に対する口腔衛生指導, 新臨床研修歯科医ハンドブック, 医歯薬出版株式会社 274-275, 2018
 - ・森川和政 (分担) 咬合誘導, 小児の口腔科学, 学建書院 269-279, 2019
 - ・森川和政 (分担) 頭蓋の発育, 小児歯科ベーシックテキスト, 永末書店 40-42, 2019
 - ・森川和政 (分担) 小児の齲蝕治療, 保険装置, 小児歯科のレベルアップ&ヒント, デンタルダイヤモンド社 70-75, 100-105, 2019
 - ・森川和政 (分担) 小帯の異常, 子どもの口と顎の異常・病変, クインテッセンス出版株式会社 14-21, 2019
 - ・森川和政 (分担) 乳幼児の口腔保健に対する考え方, 乳幼児の口腔保健診査のポイント, 乳幼児の口と歯の健診ガイド, 医歯薬出版株式会社 18-19, 31, 35, 39, 43, 2019
 - ・森川和政 (分担) 歯の萌出・吸収を再考する, 小児歯科臨床, 東京臨床出版 6-13, 2019
 - ・塩野康裕, 森川和政, 牧 憲司 外傷歯の迅速かつ適切な対応のために, 歯界展望, 医歯薬出版株式会社 5-8, 2019